

平成22年度学校評価アンケート集計結果の分析と今後の取組について

1 アンケート全体の回答傾向分析

〔職員〕

○全体にA・B評価が多く肯定的な意見が多かった。(一昨年、昨年と同様の傾向)

〔保護者〕

○回収率については、一昨年度の34%、昨年度46%、今年度58%となり、12ポイントの増加であった。学校への関心が高まっていることが伺える。

○約半数程度がA・B評価で肯定的な意見である。学校生活に関する具体的な質問に対してC評価が比較的多いが、「わからない」という評価が多いからではないかと思われる。D・E評価の否定的な意見は少なかった。

〔生徒〕

○昨年と比較してC評価(どちらとも言えない・わからない)が微減し、A評価・B評価が増えている。

2 学校評価アンケート 設問1～6(学校運営・学校全体について)

〔集計結果の分析〕

○設問6以外は、職員、保護者、生徒の順に評価は低くなっている。

○職員会議の運営等については、およそ6割の職員は効率的かつ円満に運営されていると考えている。

○職員の熱意についての設問では職員・保護者・生徒ともに高評価である。

○本校の取組について、職員に比較して、保護者・生徒は、「どちらともいえない・わからない」という回答が多く、保護者については昨年度より増加している。

○PTA・地域への広報活動について、職員・保護者ともに昨年度よりA、B評価が増加した。しかし、自由意見欄には、学校の教育活動が見えないとの意見も複数あり、今後も広報活動を積極的に展開する必要があると考える。

○保護者との連絡・意思疎通については、昨年度より職員のA評価が倍増し、保護者も微増している。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

①学校から保護者への情報提供をより積極的にし、情報がより多くの保護者に届くようにする。また、ホームページアドレスを保護者に周知していく努力が必要である。

②生徒が家庭に文書を持ち帰らず、学校からの情報が保護者に届いていない場合があることから、保護者への郵送の回数を増やす、保護者面談時にまとめて渡す、ホームページに掲載するなどの方法を検討する。

③各分掌・学年がホームページ担当者と連携してホームページをより充実させる。

④携帯サイトや携帯メールでの情報発信の活用を検討する。

⑤PTA総会のあとの学年PTAで、生徒指導部主事、進路指導主事からの情報提供の機会を検討する。

3 学校評価アンケート 設問7～10(本校の学習指導について)

〔集計結果の分析〕

- 保護者は「どちらでもない・わからない」と回答した人が昨年より減少し、その分A、B評価が増加した。学校の様子が伝わってきていることが伺える。
- 家庭学習について、職員のD評価が減少している。
- 生徒の授業に関する評価は、A・B評価が一昨年、昨年度に比して増加している。また、自分の授業に対する取り組みも良い評価をするものが増加した。
- 「欠点が減少している」の設問については、昨年と比較して特に職員D評価が減少するとともに保護者・生徒のA、B評価が増加した。
- 全体として職員の学習指導に対する評価は高い傾向にあるが、自由意見欄の保護者の記述で、教員の授業力アップを求める意見も複数あり、今後とも授業力アップの取組を継続していく必要がある。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

- ①学力向上のために授業のさらなる充実と、生徒の実態にあった授業づくりをする。
- ②学力を身に付けさせるには、補習や進学補習が有効である。
- ③家庭学習の習慣を身に付けさせるために課題を出す。
- ④自習時間を少なくするような配慮や分掌上の工夫をする。
- ⑤教室環境の整備や授業準備も大切である。

4 学校評価アンケート 設問11～13(本校の生徒指導について)

〔集計結果の分析〕

- 設問11「頭髪・服装について基準に達している生徒が減少している」については、昨年度に比較して職員B・D評価が減少し、「どちらでもない・わからない」が増加している。保護者についてはA、B評価が増加している。職員については、頭髪・服装指導について全体として少し緩んできているのではないかとの思いがあるのではないかと。
- 設問12「遅刻指導」、設問13「登下校マナー」については、昨年よりA・B評価が増加している。しかし、年に数回は一般の方から通学マナーに関して苦情が寄せられる事実もあり、大人と子供の規範意識にギャップがあると思われる。今後とも継続した指導をしていく必要がある。
- 自由意見欄の保護者の記述で、頭髪・服装についてより一層の指導を望む意見が複数あった。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

- ①統合を踏まえ、職員の共通理解、全校の指導の統一についてさらなる努力が必要である。
- ②朝の登校指導やあいさつ指導の成果があがっているので継続して実施していく。
- ③服装・頭髪のルールについて保護者に積極的に情報提供していく必要がある。
- ④マナーについてもより指導を充実させる必要がある。
- ⑤統合後スクールカウンセラーの活用等教育相談機能を充実させ、生徒をケアする体制づくりが必要である。

5 学校評価アンケート 設問14～16(本校の進路指導について)

〔集計結果の分析〕

○設問14「計画的な進路指導」と設問15「学力と生活態度の向上」については、職員・生徒・保護者ともA・Bの好評価が昨年に比較して増加している。特に設問14～16については、Dと評価する職員はいなかった。

○設問16「進路未決定者の減少・上級学校への合格率増加」については、職員の評価は高いが、昨年同様に保護者の評価はC評価（どちらとも言えない・わからない）が多い。進路に関する情報も進路通信の発行など時期を得て保護者に広報していく必要がある。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

- ①家庭において進路指導が話題に上がるようホームページ等を積極的に活用し、保護者への進路についての情報提供をより充実させる必要がある。
- ②引き続き、進路のしおりやPTA広報等の広報活動に力を入れていく必要がある。
- ③今後もガイダンスを中心とした進路指導の充実を図るとともに、1年次における進路ガイダンスをさらに充実・発展させていく。
- ④夏季休業中の進学補講やインターンシップを計画的に実施していく必要がある。
- ⑤地域の大学等との連携をさらに進める必要がある。

6 学校評価アンケート 設問17～20(部活動・施設設備・保健・学校への満足度について)

〔集計結果の分析〕

○設問17「学校行事・生徒会活動・部活動の充実」については、昨年度比較して職員、保護者については大きな変化はなかったが、生徒についてはA・B評価が増加している。

○自由意見欄の保護者の意見の中で、部活動・行事の充実を求める意見が複数あったが、その反面、部活動中心になり学習がおろそかになってはならないとの意見もあった。

○設問18「施設・設備」については、他の設問に比較して職員・保護者・生徒いずれもA・B評価が少ない。特に、職員のD評価の比率が高い。保護者・生徒の自由意見欄に冷房装置の設置を求める意見が複数あり、猛暑の影響もあったのではないかと考えられる。

○設問18「生徒の健康への留意、対応」については、昨年度とほぼ同様の評価傾向であった。

○設問19「学校への満足度」については、保護者の評価が最も高い。職員・保護者・生徒ともについても昨年度と比較してA・B評価が増加している。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

- ①部活動をより活発に、魅力あるものにする必要がある。
- ②学校行事・LHR・総合的な学習の時間の内容について、統合校ではさらに充実すべきである。
- ③予算の制約はあるが、統合を機に学校環境を充実させる工夫をし、より多くの生徒が学校に満足感や充実感を持てるように、教育内容の充実を図っていく。

7 授業や生活についての生徒の自己評価について及び生徒による授業評価アンケートの結果について

〔集計結果の分析〕

- 学校生活についての自己評価は、全体的としてA評価が最も多い傾向で、昨年度に比較して全体的にA・B評価がさらに増加している。良い生徒であると自己評価している生徒が多い。
- 授業に対する評価については、昨年度と同傾向、生徒の授業に対する評価は非常に高いものとなっている。

- 自分の学習態度について自己評価は、設問「予習・復習をして授業に臨んでいる」のA・B評価が他の設問に比べてやや低いが、昨年度との比較では増加している。全体的には自分は真面目に授業に取り組んでいるとの自己評価をしている。このような生徒の気持ちを捉え、さらに学力を伸ばしていく教員側の継続的な努力が必要であろう。

〔課題及び統合校において積極的に取り組むべき事項〕

- ①学習への取組については、予習・復習をする習慣が身に付いていない生徒が多く、課題・プリント・小テスト等の工夫が必要である。
- ②教員に対する授業評価は高い評価を得ているが、生徒の基礎学力を確実に定着させるため、生徒の学習意欲を高めるよう相互の授業参観や授業研究を進める。
- ③授業規律を確立し、落ち着いて授業を受けられる体制づくりを継続して進めていく。